夕刊
磐城新聞
十一月十三日發行
（日曜祭日翌日休刊）
振替東京一八五五六番

其の頃の作文　上
微笑ましき追憶の數々
赤井嶽男

『先生は人にて造り、その色香く人を欲ふる道具なり』

この諷誦が良き軌範を示す如く、其頃に於ける低學年の作文と云ふのが、手近な處から題材を選びその主題たる物体の構成、特徴、用途――と云つた樣な順序に書かせたもんだ

當時の作文ルール…と云ふのもチト變だが、その定石を俳句に變形した事によつて生れた述も愉快な話がある

×

何年生かの受持ち先生。勿論師範學校なんて近代的な教育を受けたのでは無く最寄りの漢學塾で近古史談日本外史、十八史略位の素讀を授けられた程度の人だつたであらうが、この先生よく有り勝ちな生來の俳句好き、適れの宗匠氣取りは旋て受持ちの兒童に句を作らせて、之に思ふ存分朱黄を加へ、ゆく迄讀者の境地をエンジョイせんとする謀反氣に導いた

×

題は隨意、何でも思つた事を十七字に纏めるんだ――との事に。先生の仰せをかしこむ兒童らは、字數を指折り數へ作ら、それこそ幼き句藻を總動員して苦想沈吟大に努めた

年はも行かぬ兒童に臨むに清新な珍奇な短詩形の創作を以てした事は、少くとも比丘に何とやらの露出を迫るに近い難題たるを失はない、大半は終に纏らずに兜を脫いで了ひ、辛じて揑つち上げたものと雖も『春に植へ秋に刈り取る稻穗かな』と云つた程度のものに過ぎなかつた

×

鹿爪らしい先生の選評が漸次進行して行くと突如斷然奇想天外的の一句。それは

『軸は竹、穗は羊の毛その種類』

五、七、五の配列も整然として、この幼年俳人に輝かしき明日あり、と云ひ度い處であるが如何せん結句が尻切り蜻蛉になつて讀む者をして轉た亡羊の歎無き能はざらしむる名句――では無い迷句であつた。惟ふに先生の十七字論を作句上の金科玉條として、その種類には頭書き、水筆等、等のある處迄論及出來なかつたわけである

思ひ出
玉垣千枝子

だれが引くのか
ギターの音は
落葉の曲に
以かよひて
遠いあの日を
思ひ出す
夕べわびしく
木の葉ちる
その目浮びて
限りなし、
あつい涙を
さそひ出す

ふゆを迎ふ
永山郁夫

○うら枯れて日尻りさむき川原に砂利をし運ぶ汽罐車とまら居り
○川水は寒くながれて枯れ／＼の岸べの芒目にうつりたり
○川原のともしき草はうら枯れて風ひようひようと吹きとほるなり
○鐵橋を音たかく／＼と貨車行きて川原はたゞに夕さむき風
○冬曇り吾妻嶺見えず砂利ふるふ人ら入り居り流るゝ川に

『唐八景』の月見　下
エッチのエス生

彼方には山に倚り崖を穿して田舍の垣根に赤ん坊の頭のやうな大きな夏蜜柑やポンタンが黄色に熟して枝が重もそうに生り下がつてゐるのも珍らしい一の點景であるなどと山岳地方の農村を眺めながら『唐八景』に着いた

『唐八景』は長崎市を圍繞する山岳中最も高く山容は奈良の三笠山に能く似てゐるが四面は開濶にして展望頗る佳く、東南の山麓直下には茂木港を下瞰して近く千々石灘に出漁せる蛇船が風を孕んだ白帆數十隻が一列に横隊をなし悠游してゐる美觀は全く油畫を見るやうである。遠くは雲仙の靈峰及び天草島を雲煙摸糊の間に望み西方長崎港外には多數の島嶼が點々碁布せられ中に彼の炭質の優良全國に比類なく且つ海底を採掘するを以て有名な三菱高島炭礦其の他が黒烟を吐いてゐるのを指呼の間に展ることが出來る。亦た北方には大小の船舶織るが如く白浪を蹴立てゝ航行する長崎港を隔てゝ全市街を鳥瞰しながら彌生茶屋の主人が懇切を極めた口碑傳説のサービスに耳を傾けてゐるうちに、いつしか暮れるに早き秋の陽は暮色將さに海を包まんとしてゐた。忽ち見る一條の銀光を波上に走らして圓い／＼十三夜の月は悠々として澄みきつた中空に懸らんとする雄大なる光景は實に言ふ可からざる壯觀であつたが、聚樂園の觀月は視察するに只だ酒盃の献酬と美麗奇音の交響樂を吹奏せしのみで獨り明月は既に屋上高く下界を照らして微笑してゐたのに氣つかなかつたといふナンセンスがなかりしや否やを陰ながら案じてゐる

賀時事新報創立五十五周年
珠雲　小野務平

布衣宰相意悠哉
筆挾風霜文陣開
五十五年振木鐸
警醒天下兆民來

11月14日
△後三年役―清原武衡一黨滅ぶ(寬治元)△貝原益軒福岡に生る(寬永七)△始めて東京に幼稚園開く(明治九)△巴里にパストウール研究所設立(一、八八八)

小説　高橋是清
(167)　松浦泉三郎作　佐々木今朝吉畫

打倒！特權內閣（三）

三黨首の會合に依つて三派の間には、左の盟約が交された

一、憲政の本義に則り政黨內閣制の確立を期す事
一、特權內閣の橫暴を阻止する事
一、この目的の貫徹の爲將來一致の行動をとる事
一、以上の趣旨に則り清浦內閣を否認する事

かくて護憲運動の戰陣は成り內閣糺彈の火蓋は切られた。日比谷、芝兩公園、赤坂山王臺等各所に、殿樣內閣打倒の叫びがあげられた、休會あけの第四十八議會は殺氣をはらんで開かれた

開會劈頭政友會の野田卯太郎が巨軀を壇上に運んだそして恭々しく發言した

『本議員は今議會が東宮殿下の御祝典を前に開會されまして、若し政爭を惹起するが如き事がありましては眞に恐惶の至りに耐へんと存じまして御盛典の終りますまで、即ち來る廿九日までの八日間謹んで休會致したいと存じます。御贊成を賜はりたいと存じあげます』

贊否が問はれた。動議は忽ち成立した。と共に三派の議員は悉く立つて自席を拋れた。首相以下各大臣の施政演說があるにも拘はらず後を見ずに退席して了つた。大臣席には呆然たる閣僚の顏が木偶のやうに並んでゐた

議會再休會と共に、高橋、加藤、犬養の三黨首、革新の領袖尾崎學堂等は昨日の政敵今日の友と袖を連ねて關西に於ける護憲大會に出席したが、その歸途、一行の列車が一の宮付近で危く顚覆せんとした椿事が勃發した。何者かゞ線路に枕木を乘せておいた爲である

これは時節柄最もセンセーショナルな問題でなければならない

『何者かの計劃的陰謀ならん！』
『背後にひそむ權力を檢討せよ』
『誰かのやりそうなこと？』

等々、新聞は筆を揃へて、暗に政府の彈壓を詰した。三派の院外團は腕を扼して悲憤の炎を燃やした

やがて、再休會あけの議會は、よりすさまじい殺氣をはらんで開かれた。議場は三派戰士の義憤の炎に包まれてゐた。傍聽席は緊張した人の波だ。新聞記者は增員された各社の俊敏記者で全く餘席を殘さなかつた

革新俱樂部の濱田國松代議士が立つて列車顚覆陰謀事件に關する痛烈な質問戟に三寸の舌頭から火を吐いた

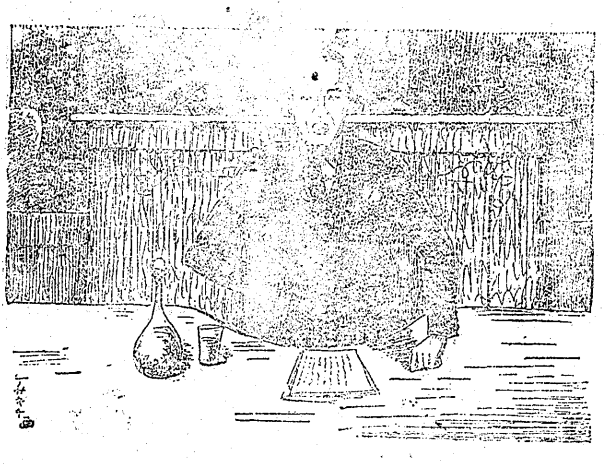
『この列車顚覆事故が、單なる過失に非ず、惡戲に非ざる事は無論言をまたぬところであるのみならず、巷間の噂は、これをある權力の指令下に行はれた。計劃的陰謀となして居ります。これを單なる事實無根の流說となすも、かくの如き事が、今後再びありとせば一般の旅行の安全は全く期し難い事となるや言をまたない。特に近日關西へ行啓遊ばされる攝政宮殿下の御警衛の事もあり、看過し得ざる聖代の怪事と斷ぜざるを得ないのであります。政府はこの犯罪を果して何と見るや？ 攝政宮殿下の御警護を何とするや？ 本議員はここにこれを清浦首相に聞かんとするものであります！』

拍手が嵐のやうにおこつた

この答辯の爲に立つたのは、首相ならぬ小松鐵相であつた。卷紙の草稿を片手に登壇した。

濱田代議士が立つて自席から叫んだ

『暫らく！ 本件に關しては特に首相の答辯を望むものである。清浦首相の登壇を望む！』

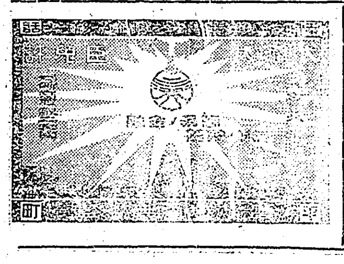


連日滿員御禮
豪華なサロン　新たな設備！
御同伴で御商談　御會合に
（心付御會計の一割外拜辭）
御食事　喫茶　小宴會
グリル　バッカス　電七〇二
女給特員募集　給料三〇圓　歩合十圓前後　確實支給　外に衣裳貸與　上品明朗ナ方（面會正午より）

嚴寒來たる！
あなたのメリヤスは專門のヤマカへ！
平町二丁目　電六〇五
山家メリヤス店

各科專門醫擔當
磐城共濟病院
院長　醫學博士　長谷部喜久
平町　電話六四一

松村醫院
院長　松村鐵郎
平町南町　電一〇七



創業十二周年記念
謝恩在庫品大奉仕
十一月七日より十一月二十日まで
ベニヤ板、天井板、床柱、（建築諸木材一式）
弊店儀各位皆々樣ノ御厚情御引立ヲ蒙リ居リ感謝仕リ候、就テハ右記念ヲ意味シ聊カ御禮ヲ兼ネ大破格特賣仕リ從來ノ御眷顧ニ對シ聊カ相酬ヒ度、何卒此ノ際ニ是非御買上ゲ賜リタク奉願上候
銘木　材木
織田材木店
福島縣平町　電話平四六〇番

內外　建築材　建具材
阿部材木店
磐城國平町（公園下）
阿部好利
電話四九四番（改メ）

旅舍　大幸舘
東京上野驛前　下谷郵便局横通角
私は平町出身ですから特に郷里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人　比佐棟雄
電話下谷（83）六七七番

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平町南町一六番地　電一七〇番
（入院隨意　病室完備）

磐城の御みやげ品
名物　靈峰羊羹　金十錢
姉妹品　柿羊羹。のり羊羹。沼ノ內辨天羊羹。
御旅のお出入には好個のお土産品です。小賣御希望の方お申越下さい。
製造發賣元　平屋賣店　小川郷驛前

お醬油は……ヤマフル
醸造元　山崎合名會社
福島縣平町　電話（營業部一〇番　本店二七番）
味噌　特油　たひら正宗　鰹節　食料品
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

ヒマル鮮魚
鯛　エビ　白魚　ワカサギ
銀鯛　甘鯛　甲イカ
北寄貝　帆立貝　目抜切身　うに貝燒
販賣店　四丁目　ト印魚問屋　電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

互融會事業近況

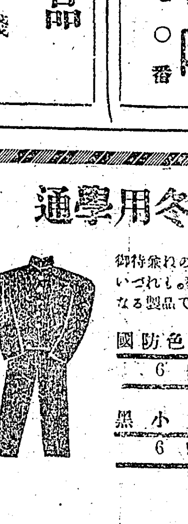
一、社會公共事業及慈善事業ヘノ奉仕
一、精神修養講話會
一、會員ノ吉凶慶弔
一、會員相互見舞
一、人事相談及婚姻ノ媒介
一、診療救血ノ補償
一、稅金ノ代納事務取扱
一、會報發刊
一、勤儉日積立金ノ獎勵
一、小資本金ノ相互融通

融通報告（自九月一日至九月卅日）現在

會員數	四、六二六口
世帶數	三、三二三戶
積立金	三六、〇三二三錢
融通數	六六五口
融通金額	四一、八六六、〇七
融通金回收額	九、二六二、〇〇

石城中小商工互融會
太平火災海上保險株式會社中央代理店
事務所　福島縣平町揺槌小路一番地
湯本方部　湯本町天王崎
相双部支　原町東一番町
小名濱方部　小名濱町古港
菊田方部　植田町台町

通學用冬服賣出し
御待兼ねの通學服が取揃ひました　いづれも。型。生地。裁縫。共に入念なる製品です。



國防色號冬
6號　4.10ヨリ　各寸20錢上り
黑小倉服
6號　3.50ヨリ　各寸20錢上り
ふかや洋服店　平　電302番

建築請負　製材　同用材　各國銘木
秋山材木店
店主　秋山市造
植田町　電話六二番

櫻ヶ丘に今を盛りと 芳烈の氣を吐く菊花
磐女三年生汗の成果

櫻もみぢに晩秋の陽ざし映ゆる平町櫻ヶ丘のほとり、磐城高女の昨今は玄關から校長室、職員室と至る處に色とり〳〵の菊花が今を盛りと芳烈の香を吐き、索寞單調に陷し易い學舍內に珍らしい和やかな氣分を漂はせてゐる。之は農業園藝の實際及び理論に就き一週一時間教へて居る全校生徒のうち、三年生の手により一年がかりの丹精で作り上げた汗の成果で、今年は懸崖六十點、盆發三本仕立百數十點、合計二百點餘に上り、中には大輪八寸の傑作などもあり人こそ知らね立派な菊花展の態樣を備へて居る而して花は生徒中の希望者に分讓し、之に因る若干の收入は校友會費の一部などに充てゝ居ると云ふ

正木校長談 菊の栽培は御承知の通り年中間斷なく手入れをせねばならぬのであるが、學校には暑中休暇があり、少數の當番では到底完全な手入れが出來ず、さりとてこれが爲全級生徒を召集する事は折角の鍛良氣分を妨げる結果となるので彼此思ふ存分に遣れぬが此邊さへ何とかうまく行けば現在以上に立派なものを作り上げる事が出來ると信じてゐる。云々

振興委員幹部講習
けふ植田校に開催

菊田方部十一ヶ町村代表六十餘名に對する振興委員幹部講習會は今十三日午前九時より植田小學校に於て間瀬縣經濟更生課長、會田、黒田兩縣屬、小野伊達郡五十澤村長を講師として開催同方部の將來に對し大に示唆する處あつた

きのふは第三校で

平方部二十三ヶ町村の町村自治振興委員會幹部講習會は昨十二日午前九時半から第三小學校講堂に間瀬縣更生課長、黒田社會教育主事補、會田屬等臨席出席百六十名、左記事項を指示後小野伊達郡五十澤村長の『自治淨化刷新、經濟更生、社會教化』に關する體驗談あり午後四時半閉會した

△自治振作（公民道確立、選擧肅正 自治の淨化刷新）△經濟更生計劃の樹立實行 △社會教化 町村常會 部落常會の運營

磐崎中堅支部總會

磐崎村藤原中堅農民講習會支部總會を十八日午後一時から小學校で

圖畫展入賞兒

縣師範校主催第五回縣下小學兒童圖畫作品展に本郡下平第一同第三 內郷宮の三校が學校賞を得たが平三校の入賞者左の如し

△第一校 尋三長谷川直幾 尋五馬目英一 尋六川上忠 高二矢野弘 △第二校 尋六桑原貞子 同千葉怜子 高二高木光子 △第三校 尋三網代嘉一 尋四青木綾子 尋五杉本正 尋六新妻信子

『氣分は滿點だ』
けふ試運轉好績
遊覽列車

レコードの擴聲器を備へた『遊覽列車』の試運轉は昨報の如く十三日行はれた——午前十一時一分！水戸からこの試驗を續けて來た下り列車から降り立つた古谷水運所長は『氣分は滿點だ』と至極上機嫌、直に平驛並に同機關庫の無事故表彰式に臨んだ上山崎平驛長等を伴ひ再び午後零時四十九分發の上り試驗列車に乘り込んだ

今回は三輛連結で行つたが愈よこの列車が實施されゝば乘客に對するサーヴイスは勿論、これによつて色々の事が列車內に通知出來るので大そう便利になると云ふ一擧兩得の設備である

幹旋の機關に 職業指導研究會
小學兒 愈よ發會式の運び

平職業紹介所では管內連絡小學校を一丸として『石城職業指導研究會』を結成すべく（總理）青沼町長（會長）篠山第一校長（副會長）四家平 仲里湯本兩紹介所長を內定準備を進めて來たが愈よ十七日町會議事堂で開かれる少年職業指導打合會に幹事、理事を決定の上近く發會式擧行の運びに至つた

坑夫引つ張り凧

求人口はあるが働き手がない…と云ふ從來と正反對なこの現象を緩和すべく平職業紹介所では去る十日からの『職業指導週間』に際し各方面と連絡これが狩り出しに努め一昨十一日は管內連絡町村當局に磐炭（田中）古河（小林）、昭和人絹（菅野）等を加へて種々懇談を交した、因に目下同所に申込んである地方の求人口でさへ次の如く、これに縣內或は遠く關西方面からの申込み殺到に同所は面喰つてゐるのだ

磐炭五〇〇名 古河、入山、小田各一〇〇名 大日本五〇名 昭和人絹男八〇〇名、女六〇〇名

無事故表彰
水戸管內の四驛

水戸運事管內平、泉、植田助川の各驛は無事故の廉により今十三日古谷所長臨席の上夫々表彰された

三浦學堂氏講演

文部省囑託三浦學堂氏は今十三日正午から內郷村磐城炭鑛從業員クラブで主として女性に關する講演をなした

入營兵歡送會

平町では今年度入營兵四十名に對し來る二十七日午前九時から縣社子鍬倉神社で奉告祭を行ひ終つて十時半から聚樂館で歡送會を開く會費四十錢、申込締切りは二十三日、又平町青年學校では十四日午後七時から町役場會議室で同校生徒入營兵送別會を開く

結核豫防週間
講演と宣傳ビラ
平署の實施案きまる

平署では明後十五日からの結核豫防國民運動週間に際し第一日は醫師會產婆、看護婦會と連絡、自動車隊を組織して管內一周宣傳ビラを撒布、期間中左記日割で接客業者、一般に對し講演會を開催する

△十六日午前十一時より谷口樓（藝妓組合員）△十七日午後一時平署會議室（理髪營業者、並に一般接客業者）△十七日午後六時（片倉製糸工場）△十八日午後一時半署會議室（保健、西洋料理組合）△十八日午後六時平署會議室（一般民）

貧困患者に
牛乳券交付

又管內各病院、醫院では無料健康診斷に應じ平細菌檢查所では喀痰の無料檢查、藥業協會平支部では希望者に對し痰壺用消毒藥を無料交付し牛乳協會平支部では牛乳無料券を發行、虛弱者貧困結核患者に配布、食肉業者は肉類の廉賣を行ふと

秋夜の絢
脚光の浮動する 濃艶な曲線の蜒り
明晩晴己會舞踊溫習

邦樂並に花柳流舞踊同好の素人から成る『晴己會』は今春發會以來着々健全な發達途上に在るが會則に據る年二回の溫習として秋季大會を明十四日午後六時から聚樂館に於て開催すると、番組次の如し

舞踊松の緑（平賀常夫）菊づくし（近藤保子 高野美律子）末廣狩（平賀常夫 晴己金太郎）岸の柳（唄元岡三朗）鶴龜（藤田耀子 三井まさ子 安齊照子）雨の五郎（晴己金太郎）羽根の禿（近藤保子 高野美律子）秋の色種（唄杵屋十茂代）小品舞踊レコード伴奏『イ、えん坂はい坂（藤田安齊）ロ、俵はゴロ〳〵（藤田 安齊 近藤 高野）ハ、鼠の留守番（三井 藤田 安齊 近藤 高野）ニ、習作（花柳晴己 平賀）』賛助出演『浦島』舞踊花柳德三郎 唄杵屋十茂代 晴己いま子 三味線大間たき 赤津おこよ

柴田署長退院

丹毒で平町南町松村病院に入院加療中だつた柴田平署長は其後經過良好、昨十二日退院した

田中農務課長來郡

田中本縣農務課長は十四日來郡、十五日郡下農產業を視察す

枯露柿乾燥講習

郡農會、神谷農試分場主催により十五日から五日間平窪村共同作業場で枯露柿の火力乾燥講習會を開き十六日から五日間は植田町で開くが講師は農試分場矢ヶ崎技手

指導地菜種定植

縣から指定された山田村水田二毛作菜種實地指導地の定植は來る十八日行ふ

晩秋のメロデー
中央から名手を聘し 十九日磐女で音樂會

磐女では過般のバザーに立ち働いた同校生のため利益の一部で東京音樂演奏會の四氏を招き十九日午後零時半から左の音樂會を開くが希望者は前賣券三十錢、マルトモ、魁文堂に發賣すると

［第一部］1ソプラノ獨唱『麥打ちの歌』サデロ曲三浦房子 2ヴイオリン獨奏『來るか〳〵』山田耕作曲小室八郎編小室八郎 3バリトン獨唱『紡車』竹久夢二詞藤井清水曲『泊り船』北原白秋詞小松耕輔曲芦野文雄（ヴイオリン助奏）4ピアノ獨奏『セレナーデ』シューベルト曲ランケ編有賀長三

［第二部］1ヴイオリン獨奏『誰も知らぬ惱み』黒人靈歌カルメンホワイト曲『セレナーデ』トセリ曲小室八郎 2バリトン獨唱『お菓子と娘』西條八十曲橋本國彦曲芦野文雄 3ピアノ獨奏『エチュード』ショパン曲有賀長三 4ソプラノ獨唱『ミネトンカの湖畔』リユーランス曲三浦房子（ヴイオリン助奏）

［第三部］1バリトン獨唱『夕星の歌』ワグナー曲芦野文雄 2ソプラノ獨唱『君よ知るや南の國』トーマ曲三浦房子 3ヴイオリン獨奏『スペイン舞曲（ホタ）』デ・フアリャ曲小室八郎 4二重唱『別れ路』本居長世詞曲『おさな心は』大木篤夫詞芦野文雄曲三浦 芦野

汚物を流すな！
傳染病の發生に 內郷好間で騷ぐ

內郷、好間方面は最近傳染病が續出するので當局がその傳染系統を調査した處同村を流れる好間川の上流菰輪方部にも同樣傳染病が發生してゐるので同方部からの汚物流下によるものらしい事が判り、兩村には未だ同川に對する鹽素滅菌の施設がなく今後一層蔓延する虞れがあるので兩村では平署を通じ菰輪方面の注意を促す事となつた

七犯の掏摸
男近く公判

去る六日二十三夜尊祭典の雜沓で平町大工町廣田良夫の袂から蟇口を掏取つた米澤市生れ前科七犯佐藤千代吉（六五）は近く平區中島裁判係り公判開かれる

同人は二十三の春掏摸をおぼへてから新庄で一月、札幌で三年、同一年、秋田で四年、福島で七年東京で五年、仙臺で五年と人生の大半廿五年を囹圄に送り昨年八月出獄後は法華行者の裝で乞食をしていたもので『寒さに向ふ折とて惡の虫が走つたのです』と自悔してゐたと

身重の內妻を妹に
惡どい前借詐欺
小名濱の飴賣り捕はる

小名濱町飴行商岸浪初太郎（二六）は飴賣り行商小河昇（二五）土工深谷數馬（四二）の兩名と共謀、生活苦から惡計を企て內妻茨城縣眞壁郡谷貝村下谷貝農高四郎妹酒井たけ（二二）を妹と稱して去る十月十日茨城縣多賀郡松原町高萩無免許周旋業和田朝吉（五〇）を欺きマンマと三百五十圓をせしめ、その後女を家に匿まひ群馬縣前橋市及び名古屋方面の私娼窟に四、五百圓で賣飛ばすべく交渉中欺かれた周旋業者が女の隱れ家を突止め中村町仙臺市とリレー式に同業者にたけの身柄を預け十日程竊宮城縣石巻市住吉新地料理店二見方に賣りつけたのを嗅ぎつけた三名は栃木縣栃木町片柳、料理店金子峰吉（四五）方から酌婦を世話するとて手付金五十圓をせしめて二、三日前石巻に至り監視の眼をぬすんで女の誘出方法などを協議中石巻署に捕へられた

なほ岸浪は信夫郡杉妻村郷ノ目生れ、昨年五月茨城縣古河町飯島製氷工場に奉公中、女工として働いた酒井たけと戀に落ちその後小名濱町で飴行商をやつてゐたものでたけは姙娠四ヶ月の身重となつてゐる

玉町八幡山生れ炭坑夫竊盜前科二犯飯島平吉（三九）は本年一月熊谷刑務所出所後茨城縣多賀郡松岡町齊藤啓七方へ百姓男に雇はれ中郷藤田の縁戚助川町物品販賣業田所卯之吉氏に望まれて同家の店員となり、たまたま二月二十日田所氏と共に水戸へ出向驛前で訴訟保證金に持參した復興債券七枚價額七十圓を主人から託されたを好機にうち四枚を拔き取り田所氏が紛失したものと誤認させ素知らぬ顏で歸宅後株式仲買人大谷秀次郎へ情を打あけて四十七圓に賣却した外白米、苗木等多數竊取したことを自白した、尚盜品は全部金にかへ助川町料理店山城屋事猿田しげ方酌婦まさ子（三二）に入れあげてゐたもので餘罪追究中である

天氣豫報
（小名濱測候所觀測）

今晩は北の風曇時々晴雨模樣

明日は北西の風晴一時曇

林區制五十年記念祝賀

植田營林署にては來る十六日午前十時より植田町菊田座に於て林區制度實施五十年を記念し町並に管內各町村有志約二百名を招き從業員慰安を兼ね祝賀の宴を張る事となり盛會を豫想されて居る

女故に惡へ
元坑夫の盜み

平署が松原署の依賴により逮捕した竊盜被疑者當時內郷村宮居住埼玉縣兒玉郡兒

現金泥の餘罪

既報—去月二十日內郷村綴赤木飯場から現金五圓を竊取して平署に捕はれた秋田縣角留川町生れ宮野農雄（二七）は取調べの結果以前群馬縣草津礦黄山工事場に居るうち同飯場から金側時計（三十圓）を竊取した餘罪判明

斷水。

平町左記町區は紺屋町地內鐵管破裂修繕のため十三日午後十時から午前零時迄斷水

材木町 紺屋町 一丁目 二丁目 三丁目 鍛冶町 南町 田町 才槌小路

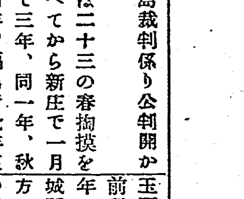
十四日
（小名濱測候所發表）

日出 六、二一 月出前 六、〇七

日沒 四、三一 月沒後 四、一七

滿潮 前四、一五 後二、三〇 干潮 前九、三〇 後一〇、〇〇

新十一月十四日 土曜 庚子 佛滅 危 氐宿



諸判定施術 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 努力次第に加はりて業務の繁盛を來たす日▲二黒 志望到達の端を開く起業營繕移轉旅行等吉▲三碧 功果現はれざる日なれど落たんせず勵むべし▲四緑 常狀を固守すればとかめなし計畫は後日にゆづれ▲五黄 元氣壯にして希望成るべき日商談等に宜し▲六白 目前の利に心を奪はれんより遠大の計畫吉▲七赤 何事も穩かに措辨すれば後日の喜びを招く▲八白 除運に會せる日大望も成る婚姻起業建築吉▲九紫 悲運にて何事も順調を欠くべし進むは大凶

廣告

おでん 一平 電話二六三番 出前迅速

高久病院 院長高久忠 平町田町電五一三

六丁目 木村外科醫院 電話三〇九番

前田醫院 院長前田清美 植田町電話一二四

和洋 家具 建具 テーブル 椅子 其他裝飾品一般…… 御用命は迅速に御努め致します。

諸官衙 學校 御用達 製作販賣 平町五丁目四 片寄製作店 片寄小彌太 電話四八四番

時代の要求 皆樣の足!! 尼子タクシーへも豆タクが入りました。

御玄關から玄關へ…迅速簡便 是非御利用を…… 市內…三〇錢 市外…四割引

流線型セダン、大型貸切バス 宮行…直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします。

平町二丁目 尼子自動車商會 電話六四〇番

◎日本石油株式會社特約店 ライジングサン石油株式會社直油特約店

關彰商店平支店 電話六一番

本店 水戸線下館驛前 茨城縣土浦町田宿（電話 五五・三三九番）

營業種目 石油、揮發油、輕油、重油、マシン油、モビール油、機械油類、植物油、胡麻油、種油、タール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ

支店所在地 常磐線關本驛前（電話六五三）（電話八二四） 常磐線四倉驛前（電話平潟五四） 久慈濱支店（電話四八） 小名濱支店（電話二三七番） 海上給油所 油槽所 大津、平潟 江名、小名濱